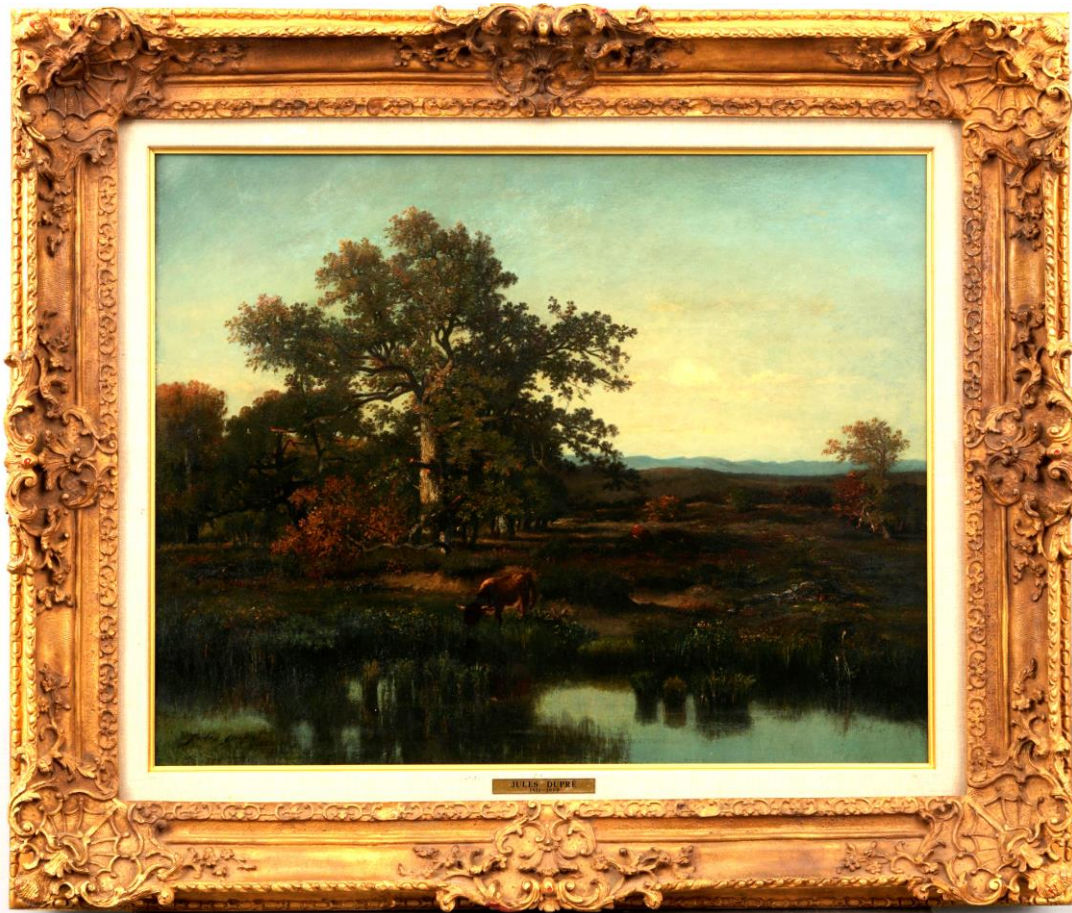


Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 森の中の沼

種類 キャンバス・油彩

サイズ 73.5×91.5cm

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。
同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻繁に旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森を訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にレイ・カバ、トロワイヨン、ミレー、ルソー、ホールユエなどがいるが
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が劇的な表情を示している
といったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。

フランス バルビゾン派 七星の一人
現在、彼の絵画はルーブル美術館、オルセー美術館、
日本を含む各国の美術館に多数収蔵

来歴 Parke Bernet(ニューヨーク)1978年5月12日

展覧会歴:「ミレーとバルビゾン派」(山梨県立美術館 1979年10月13日-11月23日)

文献:同展図録P56にNO26として掲載(図録は国立近代美術館の図書館に収蔵)

「バルビゾンの画家達」(飯田昌平編 美術出版社刊 1982年)にNO54として掲載

Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 森の人

種類 キャンバスに油彩

サイズ 30.5×61cm

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。

同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻繁に旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にレイ・カバ、トロワイヨン、ルソー、ホールキュエなどがあるが
当初ポールキュエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が劇的な表情を示しているとい
ったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。

バルビゾン七星の一人

Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 池 Létang

種類 格子パネル・油彩

サイズ 44.5×62cm

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。
同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻りに旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にルイ・カバ、トロワイヨン、ミレー、ルソー、ホールユエなどがいるが
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が劇的な表情を示している
といったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。
フランス バルビゾン派 七星の一人
現在、彼の絵画はルーブル美術館、オルセー美術館、
日本を含む各国の美術館に多数収蔵

※1857年 デュプレの友人ミレーのサロンに出品した作品「落ち穂拾い」を
自分のコレクター、リラダンのバンデル氏に購入させた。
当時、「落ち穂拾い」はサロンに出品しても買い手が付かなかった。
※本作品は『バルビゾンの画家たち』（飯田昌平 著・美術出版社）No56.掲載

Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 朝の風景

種類 キャンバス・油彩

サイズ 21.0×26.0cm

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。
同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻繁に旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にレイ・カバ、トロワイヨン、ミレー、ルソー、ホールユエなどがいるが
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が劇的な表情を示していると
いったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。

フランス バルビゾン派 七星の一人

現在、彼の絵画はルーブル美術館、オルセー美術館、
日本を含む各国の美術館に多数収蔵

Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 池

種類 キャンバス・油彩

サイズ 31.0×50.0cm

「Michel RODRIGUE」証明書付き

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。
同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻繁に旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にレイ・カバ、トロワイヨン、ミレー、ルソー、ホールユエなどいるが
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が劇的な表情を示しているとい
ったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。

フランス バルビゾン派 七星の一人

現在、彼の絵画はルーブル美術館、オルセー美術館、
日本を含む各国の美術館に多数収蔵

Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 師匠と弟子 (画家の休息)

種類 板に油彩

サイズ 24.5×18.5cm 仏2号

「Michel RODRIGUE」鑑定書付き 1850年作

※ジュールデュプレと弟子のオーギュスト・ブラール

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。
同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻繁に旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にルイ・カバ、トロワイヨン、ミレー、ルソー、ホールユエなどがあるが
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が劇的な表情を示しているとい
ったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。
フランス バルビゾン派 七星の一人
現在、彼の絵画はルーブル美術館、オルセー美術館、
日本を含む各国の美術館に多数収蔵

Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 大きな柏の木のそばの池

種類 キャンバスに油彩

サイズ 46.5×65.5cm 仏M15号

「Michel RODRIGUE」鑑定書付き
ENVIRONS DE PONTOISE, OISE
オアーズ川近郊

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。
同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻繁に旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にレイ・カバ、トロワイヨン、ミレー、ルソー、ホールユエなどがいるが
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が凜冽な表情を示している
といったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。

フランス バルビゾン派 七星の一人
現在、彼の絵画はルーブル美術館、オルセー美術館、
日本を含む各国の美術館に多数収蔵

Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 ロマンチック風景

種類 キャンバスに油彩

サイズ 54.2×65cm 仏 F15 号

*ジュール・デュプレ カタログレゾネに no677 として作品掲載

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。
同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻繁に旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にレイ・カバ、トロワイヨン、ミレー、ルソー、ホールユエなどがいるが
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が凜冽な表情を示している
といったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。

フランス バルビゾン派 七星の一人

現在、彼の絵画はルーブル美術館、オルセー美術館、
日本を含む各国の美術館に多数収蔵

Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 夕暮れの平原の池

種類 キャンバスに油彩

サイズ 24.0×29.0cm

*ジュール・デュプレ カタログレゾネに no600 として作品掲載

※鑑定書 Philippe CEZANNE 有り

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。
同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻繁に旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にルイ・カバ、トロワイヨン、ミレー、ルソー、ホールユエなどがいるが
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほりに配された鬱蒼とした大樹が凜冽な表情を示している
といったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

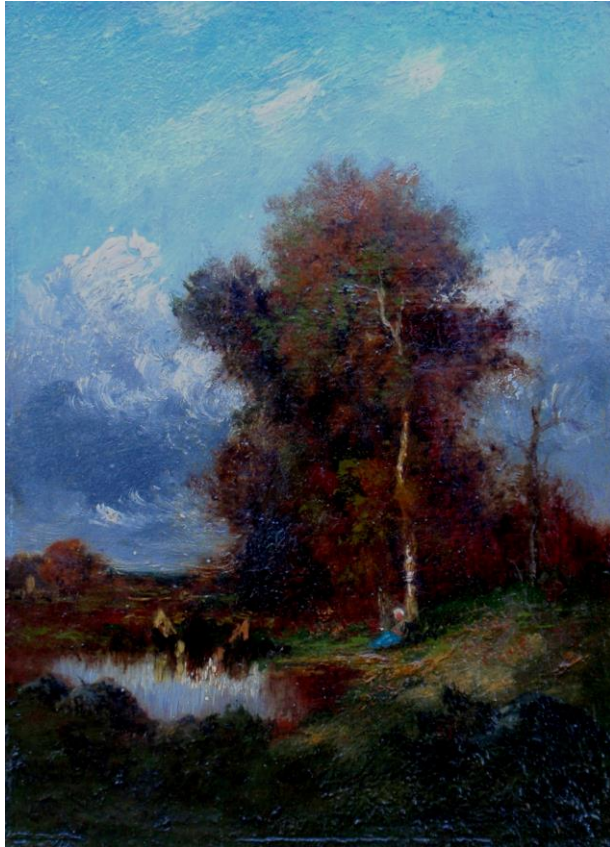
1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。
フランス バルビゾン派 七星の一人
現在、彼の絵画はルーブル美術館、オルセー美術館、
日本を含む各国の美術館に多数収蔵

Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 牛と牛飼いの少女

種類 板に油彩

サイズ 21.4×15.4cm

「Michel RODRIGUE」証明書付き

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。

同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻繁に旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にルイ・カバ、トロワイヨン、ルソー、ホールユエなどがあるが
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が劇的な表情を示していると
いったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。

バルビゾン七星の一人

Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 風車小屋がある風景

種類 キャンバスに油彩

サイズ 38.0×46.0cm 仏P8号

*ジュール・デュプレ カタログレゾネに no380 として作品掲載

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。
同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻繁に旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にルイ・カバ、トロワイヨン、ミレー、ルソー、ホールユエなどがいるが
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が凜冽な表情を示している
といったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。

フランス バルビゾン派 七星の一人

現在、彼の絵画はルーブル美術館、オルセー美術館、
日本を含む各国の美術館に多数収蔵

Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 水辺の風景

種類 板に油彩

サイズ 17.7×24.3 cm

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。
同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻繁に旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にレイ・カバ、トロワイヨン、ミレー、ルソー、ホールユエなどがいるが
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が凜冽な表情を示している
といったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。
フランス バルビゾン派 七星の一人
現在、彼の絵画はルーブル美術館、オルセー美術館、
日本を含む各国の美術館に多数収蔵